

事業所の採用力向上と魅力発信による人材採用支援

～働きやすいまち岩倉市を活かした取組～



愛知県岩倉市 鈴木 奈々美

1. はじめに

これまで本市の地域経済を支えてきたのは、市内に立地する中小企業・小規模企業である。今後も安定した市民生活やまちの活性化を推進するためには、中小企業・小規模企業の健全な事業活動の継続が、地域社会の形成及び発展に重要な役割を果たしている。私が中小企業・小規模企業に対する商工振興の担当となったのは、新型コロナウイルス感染症の影響が出始めた頃であった。感染防止対策のために人数制限をしたり、お店を休業したり、通常業務すらできない事業所もあり、行政としても手探りで支援を進めてきた。現在は徐々に経済活動が回復し、人手不足感が強まってきていると感じる。今後もさらなる人手不足感が予想されるが、特に中小企業・小規模企業では、大企業に比べて人手不足感が高い傾向にある。本市のある愛知県尾張地区（一宮、半田、瀬戸、津島、犬山及び春日井）の各公共職業安定所取扱数計による有効求人倍率をみると、コロナ禍前の令和元年10月に1.47倍であったものが、令和2年には1倍を切っていた。直近（令和2年10月）では1.21倍と1倍を超え、コロナ禍前の水準に戻りつつある。そこで本レポートでは、市内事業所の現状と人材採用にかかる課題を明らかにするとともに、人材採用支援策について検討する。

2. 岩倉市の現状

本市は名古屋市から北に約10kmの、県の北西部に位置し、人口47,835人（令和4年12月1日現在）、面積10.47km²の県内で1番小さな市である。濃尾平野のほぼ中央に位置し、市内の標高差は約4mと低く、道が平坦であるため、高齢者や子どもであっても移動しやすい。市域には田畑が残っており、農業体験塾や稲づくり体験などの農業に関する事業があり、名古屋近郊でありながら、自然とふれあうことのできる市である。名古屋駅までは特急電車で約11分、名神高速のインターチェンジまでは自動車ですら約15分と交通の便がとてつもない。通勤・通学で使用される岩倉駅の1日の乗降者数は約20,000人である。通勤、通学時間が短いことから、勤務先や高校、大学進学時の選択肢が広がり、約40%の市民が市外へ通勤・通学しており、昼夜間人口比率は78.94%である（地域経済分析システム「RESAS」）。



図1：岩倉市の位置

3. 岩倉市の事業所の現状

市内に事業所は 1,609 事業所あり、16,371 人が働いている（平成 28 年経済センサス活動調査）。事業所の大半が小規模企業で、事業所数は卸売・小売業が 1 番多く、次いで、飲食サービス業、不動産業となっている。明治から大正にかけては、近隣に繊維の町があったため、木綿や養蚕の事業所など関連した事業所が多くあった。また、養鶏も盛んであったが、現在、養蚕の事業所はなくなり、養鶏を行う事業所も少なくなった。

現在、近隣の産業に関連した事業所はあるが、その他さまざまな事業所が存在し、特定の産業が根付いているわけではない。表 2 のように、多様なモノを扱っており、事業所ごとに魅力がある。

また、市域が狭いため、大規模な工場を建てられず、事業を拡大するタイミングで市外へ移転する事業所も少なくない。地域の産業振興と計画的な工業立地を図るため、愛知県企業庁により「岩倉川井野寄地区」を設置し、令和 6 年度には全ての事業所で営業が開始される予定である。

表 1：従業員規模別事業所数

総数	1,609
1～4 人	977
5～9 人	274
10～19 人	192
20～29 人	64
30～49 人	48
50～99 人	24
100 人以上	25
出向・派遣従業者のみ	5

※経済センサス活動調査結果により筆者作成

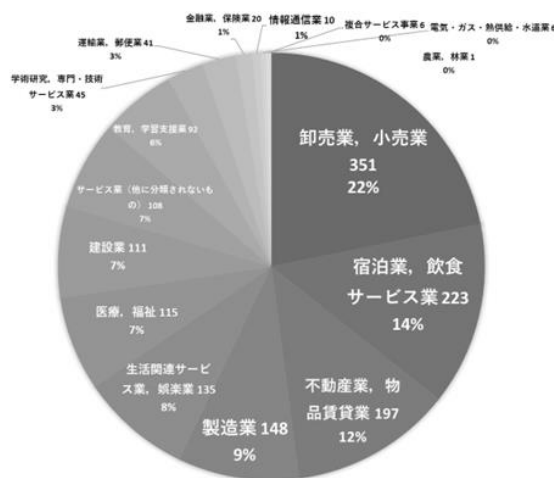


図 2：岩倉市産業構造

※経済センサス活動調査結果により筆者作成

表 2：市内事業所の事業内容等

	業種	従業員数	事業内容
		席数	
1	製造業	596 人	ビール瓶、食器など幅広いガラス製品を扱っている、本市で 1 番大きな事業所。お酒の瓶は全国シェア No. 1。市内の日本一ゆでたまごを製造している工場から卵の殻を仕入れて、ガラスの原料として活用するなど、SDGs にも取り組んでいる。さらに、自社製品の復刻版を販売し、レトロなデザインが若い女性を中心に人気となっている。

2	製造業	400 人	医療用のガーゼやマスクなどを製造する。多くの医療ドラマにも商品を提供し、使用されている。お産の際に使用する製品は、産婦人科の全国シェア No. 1。
3	製造業	198 人	シャンプー等の詰替や食品の小袋等のプラスチック製のパッケージ容器を製造する。また、本業とは関係なく、社員が作りたいものを募集し、商品化している。
4	製造業	144 人	主に自動車部品の試作品を製造する。自社に 3D プリンターが何台もあり、材質を変えて試作品を製造することができる。本市にヨーヨー世界チャンピオンが在住していることから「ヨーヨーのまち」として発信するために、市などとともに岩倉産ヨーヨーを開発し、製造をしている。ヨーヨーは市内外への販売や市内小学生に配布し、本市の観光資源の 1 つとなっている。 
5	飲食業	20 席	昭和の雰囲気を感じられる食堂でアルコールも飲める、創業 100 年を越える老舗である。お店の中に置かれている味噌おでんやおつまみはお客さんが自分で取るスタイル。おすすめは甘味ブドウ酒。 
6	飲食業	50 席 64 席 65 席	市内にイタリアン、焼肉、コーヒーの店舗がある。今年できたコーヒーの店舗は、大きなドーナツが映えると若者に人気。焼肉の店舗は本市の鍋イベントにも出ており、来場者による投票で 2 回連続優勝している。また、ピザやコーヒーなどをふるさと納税の返礼品として出品し、人気がある。
7	飲食業	61 席	有名人も多く来店している田んぼに囲まれた場所にある天ぷら屋。直径 10 センチほどの大きな椎茸が入った茶碗蒸しやお刺身、味噌カツなどの名古屋名物がセットになったリーズナブルな定食が多い。ほぼ全ての定食についている天むすは、お店の看板商品。
8	飲食業	50 席	岩倉市名古屋コーチン振興組合の一員で、名古屋コーチンを中心に提供している。お座敷でいただく名古屋コーチンの定食は、高級な雰囲気味わえる。名古屋コーチンの炊き込みご飯は、おかわり自由。文化庁の 100 年フードに選ばれた「ひきずり」鍋も味わうことができる。 
9	飲食業	15 席	市役所から徒歩 1 分のお店。本市で上位のボリューム満点のランチメニューが人気である。からあげ定食のご飯をカレーにすることができる。夜はバーとして営業している。

4. 岩倉市の事業所の人材採用にかかる課題

岩倉市商工会が市内事業所を対象に毎年行っているアンケート結果と、事業所へ実施したヒアリングから、人材採用にかかる市内事業所の課題をまとめる。

(1) 岩倉市商工会実施アンケート調査結果（令和 3 年 11 月実施）

地区内事業所に関するアンケートの、「経営上の課題」の問いに対して、「人材の確保・育成」と回答した事業所は 27.7%であった。毎年同様の結果となっており、「人材の確保・育成」は、長年の課題であると言える。課題の中でも、「人が集まらない」と回答した事業所が 1 番多く、次いで、「定着しない」、「教育ができない」と続く結果となった。

表 2：人材の確保・育成に課題があると回答した事業所

調査年	割合 (%)
令和元年	33.7
令和 2 年	27.4
令和 3 年	27.7

※アンケート結果により筆者作成

(2) ヒアリング調査結果（令和 4 年 6～8 月実施）

過去 3 年間の事業で人材採用に関する個別伴走支援を行った事業所を中心に、最近の課題や今後取り組みたい事項についてヒアリングを実施した。

表 4：ヒアリング結果

業種	従業員数	最近の課題	今後の採用
製造業	44 人	自己都合（妊娠や妊活等）が理由の退職が続いている。不足分は中途採用で補充したいが、すぐに見つからない。また、パートの求人もいい条件で出しているが、全く集まらない。 その他、従業員の年齢構成がいびつであるため、定期的な採用が必要になるが、そのためにはまず、業績を伸ばす必要があると考えている。	事務員のパート、経理事務・営業職の高卒・大卒・中途採用
サービス業	200 人	不定期な求人（バイトやパート）は、営業担当者がそれぞれ行っている。最近、営業職の新卒を取るようになってきた。合同説明会では、聞きに来てくれる人もいるが、応募まで続かないケースが多い。 採用人数が少ないため、事業所内に同期がいない。	日常の清掃業務や期間限定の仕事（プールの監視員等）のパート、営業職の大卒・中途採用
製造業	198 人	女性従業員の昇任制度がないなど、内側の制度を見直す必要がある。市内の高校生を取りたい。	工場内で働く高卒
建設業	6 人	従業員のほとんどが 50 代で、数年すると退職者が出てくる。長い間、同じメンバーでやってきた。 数年前に新卒が入ったが、すぐに辞めてしまった。 社内では、社長のみが採用に関わっている。	事務の中途採用
製造業	7 人	2 年後に息子が帰ってくる。そのタイミングで採用を考えているが、何からしたらいいかわからない。	営業職の大卒・中途採用
教育	15 人	免許が必要な職種のため、集まりづらい。免許保有者同士のネットワークが強いので、いい情報も悪い情報も口コミで広まりやすい。 子育てが落ち着いた主婦の採用も積極的に行っている。	日本語学校教諭免許保有者の大卒・中途採用や免許取得を目指す人

(3) 結果から浮かび上がる市内事業所の人材採用に関する課題

多くの事業所が不規則な採用であり、人材採用について何かしらの課題を感じていることがわかった。人材が必要となる時期も不規則であるため、新卒や中途の就職活動のタイミングと必ずしも合うわけではない。また、採用活動の経験も浅いことから費用もかけづらく、好条件の求人を出していても募集媒体が少ないため、周知が行き届かない。加えて、事業所の規模が小さく、事業内容が市民にすら知られていない事業所が多い。これらのことから本市の人材採用に関する課題としては、採用活動のタイミングのズレと事業所が求職者に知られていないことが考えられる。

5. 岩倉市の事業所支援の現状

平成 29 年 3 月に「中小企業・小規模事業者活性化行動計画」、令和 4 年 3 月には「第 2

期中小企業・小規模企業活性化行動計画（以下、計画）」を策定し、計画に沿った支援事業を実施している。計画の中でも、人材採用支援は重要な項目として挙げており、これまでに、採用戦略の個別支援事業や就職フェアでのブースの作り方、オンラインでの就職活動の方法などの支援を行ってきた。

その他の事業として、第1期の計画と同時期に「岩倉市地域産業活性化推進協議会（以下、協議会）」を立ち上げた。協議会の構成メンバーは市、商工会、市内金融機関である。年3回の協議会の中で、支援事業の検討、実施をしている。また、平成26年度には「ものづくり FOCUS」という、本市の魅力的な事業所を紹介する冊子を作成し、市内の小中学校や高等学校、近隣の大学、本市の成人式等で配布している。平成30年度からは小学生向けの企業見学ツアーを実施し、キャリア教育を行うとともに、保護者に向けた就労のきっかけを作る事業を行っている。

6. 課題解決の方向性及び可能性

今までの人材採用支援は、人材採用のアプローチ方法を中心に実施してきた。実際に採用に至ったり、応募数が増えたり、各事業所への支援としては意味のある支援となっている。しかし、継続的に実施できるものではないこと、また、全ての事業所で実施できるものではないことから、支援が行き届かない事業所が出てきてしまう。

そこで、市全体での採用力を考え、岩倉市で働きたいと思ってもらえるような取組があるといいのではと考える。本市はシティプロモーションで「いわくらしやすい」を合言葉に、暮らしやすさをPRしている。これは、働いている人にとっては「働きやすい」と言える。そこで、本市を「働きやすいまち」として売り出す取組を考えていきたい。また、支援事業の中で市内事業所と関わっていると、事業所は魅力的な人やモノをそれぞれ持っている。その魅力を感じてもらえれば、事業所に興味を持ち、採用に繋がってくるのではないかと考える。そこで、課題解決の方向性として、「働きやすい岩倉市」と「事業所の魅力」を発信することで、市全体の採用力をあげ、人材採用支援に繋げていく取組を検討していく。

7. 課題解決の参考となる取組

市全体で採用を考える取組の事例として、ミツハマル（お仕事バンク）、面白法人カヤックの事例をあげる。また、事業所の魅力が伝わり、事業所が市内外の人と交流できる取組として、ミツハマル（三津お散歩マップ）、オープンファクトリーの事例をあげる。

(1) ミツハマル（愛媛県松山市）

ミツハマルは、愛媛県松山市の港町である三津浜でまちづくり事業を行う会社である。主に空き家バンクの運営と、移住者と地域を繋げる事業を行っている。

ミツハマルでは「お仕事バンク」の実施を検討している。期間限定の求人が集まりづらいとの地元事業所の声を聴き、移住者と地域の仕事を繋げるものであり、実施のために、現在、職業紹介の免許取得や地域事業所へのアンケートなどを行っている。地域の求人情報を集約する点について、参考にしたい。

また、別の事業として、「三津お散歩マップ」がある。このマップには、地域のお店の情報が載っており、店主の顔写真やイラスト、担当者の一言コメントが書かれている。実際に行ってみたい、会ってみたいと思わせる仕組みがあった。観光地やグルメ情報、歴史なども掲載することで、いろんな人に手に取ってもらえ、予想以上の配布数となっている。内容については、ネットに掲載されているような情報だけではなく、自分の目で見、話を聞いて得た情報が掲載されている。また、お店の入れ替わりや新たな移住者が出てくることから、毎年のように更新されている。写真やイラストを用いたマップについて、事業所の魅力を発信するツールとして参考にしたい。

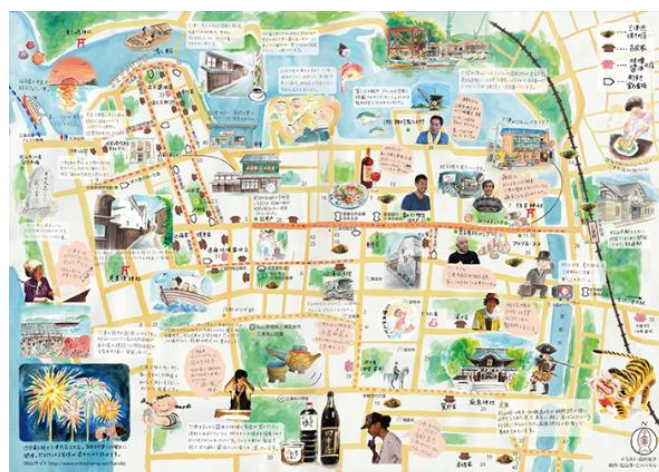


図 3 : 三津お散歩マップ

(2) 面白法人カヤック（神奈川県鎌倉市）

面白法人カヤックは、鎌倉を拠点にまちづくり事業や SNS・WEB のプロモーション、イベント企画、ゲーム制作などを行う会社である。地域ならではの豊かさを実現する「地域資本主義」を掲げ、地域に根ざした企業を目指している。

「まちを応援する」仕組みとして「まちの〇〇シリーズ」と称して、社員食堂や人事部、保育園などを展開している。「まちの社員食堂」は、鎌倉に拠点を持つ企業・団体と協力して作った、鎌倉で働く人を応援する地域に根ざした食堂である。ただ普通に専門業者に頼むのは面白くない、ということで地元企業として地域に貢献でき、会社や組織の垣根を越えた交流できる場として生まれた。50 以上の地域のお店が週替わりで、健康的なおいしいメニューをふるまっている。参加企業が会費を払うことで、その企業で働く従業員が安くランチを食べることができる。夜には「まちのスナック」となり、鎌倉に縁がある人や、当社社員が日替わりでママ・マスターを勤める共創スナックとして営業し、世代を超えた交流の場づくりを目指している。

また、「まちの人事部」は、どうすれば鎌倉が会社や働く人にとって幸せなまちになれるのかを考えるために、鎌倉の企業が集まって形成している。それぞれの会社の人事担当が連携し、学び合いの場を作っており、合同で採用説明会や研修、入社式を行っている。合同採用説明会は、市内の寺院で行うなど、鎌倉ならではの会場で開催してい

る。地域企業が合同で運営すること、また、交流が生まれる環境づくりについて参考にしたい。

(3) オープンファクトリー

①関の工場参観日（岐阜県関市）

岐阜県関市は刃物が有名であり、刃物を中心とした製造業の事業所数が市内事業所の中で一番多い。令和 4 年で 9 回目の開催となった「関の工場参観日」の参加事業所は年々増えており、40 事業所が参加した。インフォメーション会場には、就職相談窓口があり、参加事業所の求人情報も掲示してあった。実際に 4 か所の工場見学をした際に、従業員から直接話を聞くことで、誇りをもって仕事をしていることが伝わってきた。また、参加者の属性によって内容を変更しており、見学しやすく、印象に残る内容となった。3 日間のうち、事業所ごとで日時を設定しており、半日の決まった時間のみであったり、終日受け付けていたり、予約の要、不要もそれぞれ異なっていた。また、開催までに全 3 回の工場見学の内容についての参加事業所向け勉強会も開かれ、参加しやすい工夫がされていた。

事業所がそれぞれで日時を決めていること、また、勉強会で見学内容などを学ぶことで、事業所が参加しやすいと感じた。勉強会では、事業所が主体となって実施していることから、市内事業所同士の交流も生まれる機会となる。事業所にとって負担の少ないやり方について、参考にしたい。

②OTA OPEN FACTORY（東京都大田区）

大田区の工場数は 23 区の中で 1 位であり、大田区の強みととらえている。OTA OPEN FACTORY では、様々な企画を重ねることで「モノづくりのまちづくり」の魅力と楽しさを伝えている。企画の中で、ものづくり職人の個性と技をイメージカードにしたものを販売しているものがある。職人のイラストとともに、それぞれの技術もイラストや説明文に記載されている。事業所の魅力を、技という表現やイラストを使用することで、子どもにもわかりやすく伝わり、身近に感じる点について、参考にしたい。

8. 課題に対する解決策

上記の事例をもとに、本市の暮らしやすさの特徴を活かした「働きやすいまち」の取組として「いわくらしやすい社員寮」と、事業所の魅力発信の取組として「いわくら産業の日」について提案する。

(1) いわくらしやすい社員寮

働きやすいまちである本市に住みながら、市内事業所に就職してもらう取組として、単独で社員寮を持つことのできない事業所の共同社員寮を設置する。また、市内移動用のシェアサイクリングを導入する。

住居者の高齢化が問題となってきている岩倉団地の一部を「いわくらしやすい社員寮」として改装し、参加事業所の会費により共同社員寮を運営する。社員寮の 1 階は共有スペースとして、社員食堂とコワーキングスペースを設置する。社員食堂は、市内で

作った食器、市内で採れた野菜を使用し、市内飲食店が提供することで、地産地消を目指す。一般の方も利用可能であるが、参加事業所の従業員は安価で食べることができる。モーニングやランチの営業に加え、夜間はイベント会場として利用する。定期的にイベントを行うことで、事業所を超えた交流の場とする。コワーキングスペースも設置し、働き方の多様化に対応した寮にする。コワーキングスペースの中央には大きな長机を置き、ディスカッションも行える環境を整える。壁面には参加事業所の事業内容がわかる紹介コーナーを設置し、事業所間の交流のきっかけになるようにするとともに、事業連携や各事業所の課題解決等に繋げる。

岩倉団地は駅から少し離れた場所にあるが、市内は平坦な道が多いため、楽に自転車で移動することができる。そこでシェアサイクリングを導入し、寮や駅に自転車置き場を設置する。参加事業所の従業員が使えるようにし、日々の通勤やランチに使用してもらおう。

従業員の福利厚生の取り組みを市全体で行うことで、各事業所の負担を減らすことができる。また、共有スペースを設置することで、事業所同士の交流が生まれ、お互いに学び合うことができるため、市全体の採用力の向上に繋がると考える。

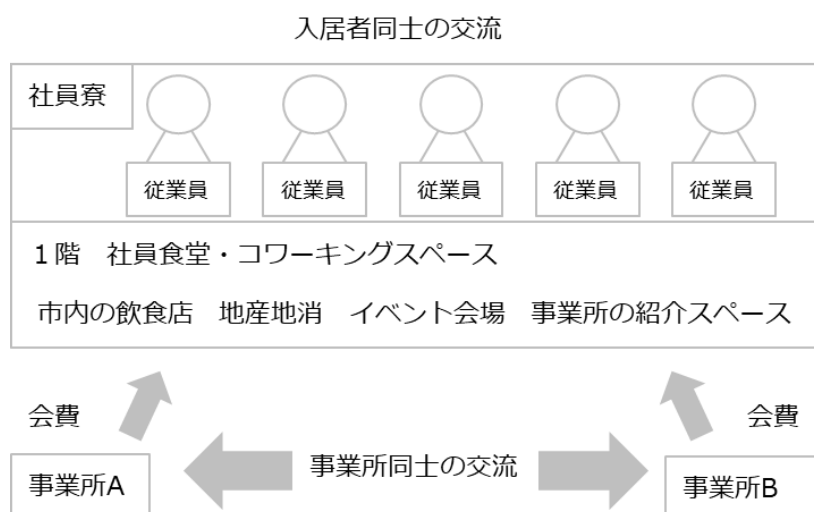


図 4 : いわくらしやすい社員寮

(2) いわくら産業の日

事業所の魅力発信の一つとして、事業所を一般公開し、見学できる日を設ける。併せて、魅力を掲載したパンフレット及びホームページを作成する。また、ホームページに蓄積した事業所の情報を活用し、「お仕事バンク」として求人情報を掲載できるようにする。

いわくら産業の日の実施内容は、1日目と2日目で対象者を変え、1日目は大学や社会人の参加を想定し、大人向けの内容とする。大人の参加であれば、危険な箇所でも見学することができる。実際の就職体験までにはならなくとも、より多くの見学、体験ができる。2日目は親子での参加を想定し、子ども（小中学生）が楽しめるワークショッ

プを中心に構成する。また、親（主にパート）への就労に向けたアプローチも実施する。両日とも従業員がいる時間帯での見学とし、従業員と参加者の交流ができるようにする。また、「いわくら産業の日」開催前には、参加事業所を対象に勉強会を行う。実際に見学を受け入れている事業所の方を講師に招き、工場見学のやり方・見せ方、工場見学実施後の事業所内の変化や効果を学ぶ機会とする。併せて勉強会を通して、市内事業所の交流も期待する。その他、参加事業所をマップに落とし込み、より多くの事業所を周遊してもらうようなパンフレットを作成する。「気軽に社長と話せる」、「女性が活躍しやすい」、「国内シェア No. 1」、「実はアレを作っている」等のアイコンを使用し、参加者が興味を持つような見せ方をする。また、近隣の飲食店・病院・施設や、駅までの案内、事業所の紹介文を社員の顔写真やイラストと併せて掲載することで、事業紹介とともに、「働きやすい」まちを感じてもらい、人材採用支援に繋げる。

さらに、「いわくらしやすい社員寮」と「いわくら産業の日」の情報をひとつのHPに集約する。「いわくら産業の日」で使用する事業所ごとの魅力をまとめたHPに、「いわくらしやすい社員寮」の事業紹介や参加事業所もわかるように掲載する。魅力などの情報に併せて求人情報も掲載し、地域の「お仕事バンク」を作成する。「いわくら産業の日」に参加した人にとっては、見学と同時に求人内容の確認もでき、求職者であれば、そのまま就職につなぐことができる。「いわくら産業の日」の参加者以外の方であっても、本市で就職したいと思った時に、市内事業所の魅力と採用情報をまとめて確認することができる。「いわくらしやすい社員寮」に入居したいから岩倉市で働きたいと思ってもらえることも期待する。

9. おわりに

事業所の人材採用については、今後も課題としてあげられることが見込まれる。一時的な支援ではなく、事業所の魅力とともに、市全体の採用力を上げることで、岩倉市の事業所で働きたいと思われる地域になっていく支援をするべきだと考える。

事業所の課題は他にも、事業承継や職場関係、コロナ禍で経営態を変えざるを得なくなった事業所等、さまざまなものがある。継続的に課題を把握し、その課題に合った支援を行うことが大切である。そのためには日ごろから事業所の意見を聞いたり、一緒に活動をしたり、積極的にコミュニケーションを取ることが重要であると感じる。実際に対話をすると、事業所の深いところにある課題や、経営者・社員の思いなど、今まで知ることのなかった話を聞くことができる。今後も対話を大切にしつつ、事業所の課題を解決できるような支援策を検討していきたい。

【参考文献等】

厚生労働省 HP、厚生労働省愛知労働局 HP、岩倉市史、総務省統計局経済センサス・工業統計、地区内事業所に関するアンケート（岩倉市商工会実施）、第2期岩倉市中小企業・小規模企業活性化行動計画、ミツハマル HP、面白法人カヤック HP、柳澤大輔『鎌倉資本主義』プレジデント社、関の工場参観日 HP、おたオープンファクトリーHP